

科目名 解剖生理学	配当時期 1 年次 前期	講義担当者	
時間割表記名 解剖生理学	単位数 2単位	松野 健二郎	
	時間数 60 時間(32 回)		
事前学習内容			
予めハンドアウト資料を配布し、ロイロノートには、資料記入済と教科書記入済のお手本ファイルを upload する。それらを予習課題として、資料と教科書に書き込んだ上で講義に望む。解剖学の用語は難解なものが多いので、予習すると用語に親しみやすくなり、講義が理解しやすくなる。			
授業目標			
1. 発生学を土台として形と機能が表裏一体であることを学ぶ。 2. 各臓器の簡単な模式図を覚え、その仕組みを説明できるようになる。 3. マイノート作成と自習課題を成績の一部として評価する。これにより、自分で調べて学ぶという習慣ができ、勉強が楽しくなる。医療人に必要な自己問題解決能力が養成される。 4. 本科目の国家試験問題に関して、必要な知識と考察・推測力をつけ、十分な得点ができるようになる。			
DPとの関連			
DP1. 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的・霊的に統合された生活者として理解できる。 DP2. 一人ひとりの健康状態に応じて、最善の看護を選択し、科学的根拠に基づいた看護を実践できる。			
授業の流れ			
回	学習内容	方法	備考
1 2 3	1. イントロダクション 1) 学習目標と学び方、解剖概論 2) 四大組織、細胞学(1) 3) 細胞学(2)、代謝	講義	
4 5 6	2. 栄養の消化と吸収 1) 口・咽頭・食道・胃の構造と機能 2) 小腸・大腸・肛門の構造と機能 3) 肝胆膵の構造と機能・腹膜	講義	
7 8 9	3. 呼吸と血液の働き 1) 呼吸器の構造(1) 上気道、気管 2) 呼吸器の構造(2) 気管支、肺 3) 呼吸生理	講義	
	中間試験 45 分	筆記試験	
10	4) 血液		
11 12 13	4. 血液の循環とその調節 1) 循環器系概論、心臓構造(1) 2) 心臓構造(2)、心機能 3) 心臓構造(3)、動脈系	講義	

14 15	4) 静脈系、リンパ系 5) 血液循環の調節	講義	
16 17 18	5. 体液の調節と尿の生成 1) 腎臓 2) 尿路 3) 体液の調節	講義	
19 20	6. 内臓機能の調節 1) 内分泌概論、各論(1) 視床下部・下垂体系 2) 各論(2) その他の内分泌器官、ホルモンによる調節	講義	
21 22 23 24	7. 生殖・発生と老化のしくみ 1) 男性生殖器、性差 2) 女性生殖器・性周期 3) 妊娠・胎児 4) 出産・成長・老化	講義	
25 26 27 28 29 30	8. 身体の支持と運動 1) 骨学・筋学概論 2) 関節と運動、筋生理 3) 上肢の骨格と筋 4) 下肢の骨格と筋 5) 体幹・頭頸部の骨格と筋 6) 運動器のリハビリテーション	講義	
31	筆記試験 45 分	筆記試験	45 分
受講上の注意 教員は、液晶プロジェクタで、書き済みの予習資料や教科書の ppt スライドを供覧し、解説しながらタブレット書き込みをしていく。学生は、書き込み分を資料や教科書に追加記入しながら講義をよく聴いて、理解できない時は質問する。終了後は、お手本のロイロノートで復習しながら、教科書・資料への書き込みを完成する。質問があるときはロイロノート経由で受ける。成績は筆記試験とレポート(マイノートと自習課題)の総合評価とする。 筆記試験は、中間試験と最終筆記試験の合算とする。			学習方法 評価方法 筆記試験 レポート
使用するテキスト ①統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 医学書院 ②系統看護学講座 準拠 解剖生理学ワークブック 医学書院 ③生体のしくみ標準テキスト 第3版 新しい解剖生理学, 医学映像教育センター			